

「第94回安全保障定期講座」  
(森下陸上幕僚長講演)の紹介

安全保障研究委員会

令和6年4月18日(木)、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、第94回安全保障定期講座が開催されました。



今回の講座は、本年4月1日の陸陸偕行社発足後、初めて開催されるものであり、その記念すべき機会に当たり、講師として陸上幕僚長森下泰の臣陸将をお迎えし、「陸上自衛隊の取り組みについて」と題する講演を実施していただきました。

本講演には、会員のほか企業等からの一般参加者を含む合計2,500名余りの聴講者が参集し、会場は開始

前から大変な熱気に包まれました。講演に先立ち、火箱芳文理事長が挨拶を行い、陸修偕行社の誕生の経緯及び設立の目的を紹介するとともに、陸修偕行社の活動に対する理解と支援・協力の拡大を呼びかけました。

続いて行われた講演では、森下陸幕長は、我が国が直面する戦後最も厳しく複雑な安全保障環境を概観するとともに、令和4年12月に策定された「安全保障3文書」(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)について説明し、これらの文書において示された「防衛力の抜本的強化」の一環として現在陸上自衛隊が行っている取り組みについて詳しく紹介されました。

ながら陸上自衛隊トップが語る内容は広範多岐にわたり、会場を埋め尽くした聴講者は熱心に耳を傾けていました。講演の締めくくりには、活発な質疑応答が行われるとともに、森下陸幕長から陸修偕行社の今後の活動に対する大きな期待が寄せられ、本講座は盛況のうちに幕を閉じました。

陸修偕行社安全保障研究委員会は、引き続き安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及に係る活動を積極的に展開していきます。

7月には、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、岩田清文氏(元陸上幕僚長)、磯部晃一氏(元東部方面総監)、ローレンス・D・ニコルソン退役中將(元米国第3海兵遠征軍司令官)らにご参加いただき、安全保障シンポジウムを開催する予定です。皆様のより一層のご理解とご賛助をよろしく願います。



自らの経験や時折ユーモアを交え

赤トンボ突入せり

小嶋 栄治 陸自78